

「人文知」 コレギウム実施状況一覧

	テーマ	発表者	開催日
第1回	富山、「病い」の未来を切り拓く ・富山県における高次脳機能障害支援の展開と社会学 ・ダーク・ツーリズムの視角からみた観光地富山の可能性	伊藤智樹 (社会学・准教授) 鈴木晃志郎 (人文地理学・准教授)	2017. 06. 28
第2回	映像とことば、「客観性」という幻想 ・アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ ・学習辞典における重要語とは？	赤尾千波 (アメリカ文学・教授) 黒田 廉 (ドイツ語学・教授)	2017. 08. 23
第3回	時の彼方から蘇るモノ、そして人 ・出土仮名文字資料の研究 ・東洋史事始—内藤湖南と桑原隲蔵—	鈴木景二 (日本史・教授) 徳永洋介 (東洋史・教授)	2017. 09. 27
第4回	人と社会の病理—近代ヨーロッパの思想と文学の知見から— ・西欧近代思想のなかの精神病理—カントの理性批判をめぐって— ・犯罪を人文学する—フランス言語文化からのアプローチ—	澤田哲生 (人間学・准教授) 梅澤礼 (ヨーロッパ言語文化・准教授)	2017. 11. 22
第5回	富山、地域性を彩る祭りのことば ・富山の祭りの魅力を考える：福野夜高祭を事例にして ・敬語：そのバリエーションと富山県方言	藤本武 (文化人類学・教授) 中井精一 (日本語学・教授)	2018. 01. 31
第6回	漢字、その深遠なる世界へのいざない ・甲骨文も言語である ・漢文訓読研究のコペルニクスの転回	森賀一恵 (中国語学・教授) 小助川貞次 (日本語学・教授)	2018. 03. 20
第7回	文学研究の最前線 ・『古事記』と「八雲」 ・芥川龍之介、自殺前の苦悩とは	中島淑恵 (フランス文学・教授) 小谷瑛輔 (日本文学・准教授)	2018. 04. 18
第8回	迷宮のなかに秩序と規範を求めて ・「連続体の迷宮」とは何か—ライブニッツとパースが挑んだ哲学最大の難問— ・ルールとは何か—行為規範の規範性を、論理的強制力として描き出す—	池田真治 (哲学・人間学・准教授) 佐藤裕 (社会学・教授)	2018. 06. 20
第9回	フランスと日本—それぞれの過去から学ぶこと— ・フランス右翼ナショナリズムの論理構造—Ch・モラスが設定したふたつの「敵」— ・宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』	南祐三 (西洋史・准教授) 田村俊介 (日本文学・教授)	2018. 09. 05

	テーマ	発表者	開催日
第10回	中澤敦夫教授 ドミートリイ・リハチョフ賞 受賞記念講演 ・文献と図像から読み解く、ロシア人の伝統的『あの世』観	中澤敦夫 (ロシア文学・教授)	2018. 10. 24
第11回	人と人、人と社会 ・韓国のLGBTコミュニティをとりまく現状—プライド・イベントの現場から見えてくるもの— ・アメリカにおける福祉政策と市民の境界線—生殖をめぐるポリティクス—	林夏生 (国際関係論・准教授) 小野直子 (アメリカ文化論・教授)	2018. 12. 05
第12回	地域で育む、地域を育む ・子どもの生活空間とまちづくり—楽しく失敗できるまちに向けて— ・「〇〇語らしさ」の音声学	大西宏治 (人文地理学・教授) 安藤智子 (音声学・音韻論・准教授)	2019. 01. 30
第13回	・マルチモーダル・ミュージッキング—米国黒人教会における音楽する身体— ・「人間の安全保障」から見たヒトの移動—中米の場合—	野澤豊一 (文化人類学・准教授) 竹村卓 (国際関係論・教授)	2019. 07. 31
第14回	・スウェーデン兵の従軍記録にみる大北方戦争 (1700~21年) ・人工知能の社会学	入江幸二 (西洋史・准教授) 佐藤裕 (社会学・教授)	2019. 09. 25
第15回	・聖者と政治—中央アジア東部の近世史— ・ウィリアム・シェイクスピアへのジェイムズ・ジョイスの敵対—『ハムレット』の改作を中心に—	澤田稔 (東洋史・教授) 結城史郎 (イギリス文学・准教授)	2019. 10. 23
第16回	・名詞句階層から見る英語とコリヤーク語—異質性の陰に潜む普遍性— ・基底核を発動する連体修飾の構造	呉人恵 (言語学・教授) 藤川勝也 (英語学・准教授) 樋野幸男 (日本語学・教授)	2019. 11. 20
第17回	・心理療法における即時的改善—トークセラピーの限界を超えて— ・時間の実在性と心の活動について—アリストテレス時間論からの考察—	喜田裕子 (心理学・教授) 永井龍男 (哲学・教授)	2020. 01. 29
第18回	梅澤礼准教授 渋沢・クローデル賞 受賞記念講演会 ・囚人と狂気—19世紀フランスの監獄・文学・社会	梅澤礼 (フランス文学・准教授)	2020. 02. 07

	テーマ	発表者	開催日
第19回	<p>特別シンポジウム「感染症と人文学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1709-13年のペストとスウェーデン ・近代フランス社会と感染症：ウィズ・コレラからアフター・コレラへ ・20世紀初頭アメリカにおける感染症と公衆衛生：『腸チフスのメアリー』の記憶 ・ラフカティオ・ハーンと感染症②：『コレラの時代に』考 ・パンデミックと現代文学：20世紀ディストピア小説をふりかえる 	<p>入江幸二 （西洋史・准教授）</p> <p>梅澤礼 （フランス文学・准教授）</p> <p>小野直子 （西洋史・教授）</p> <p>中島淑恵 （フランス文学・教授）</p> <p>武田昭文 （ロシア文学・教授）</p>	2020. 11. 07 （オンライン開催）
第20回	<p>日本語の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南米日系人の日本語と日本文化—世代間継承に注目して— ・ミンナ解ケテル準体方程式から、ある種の主節動詞に起因する準体構造の形式化 	<p>中井精一（日本語学・教授）</p> <p>樋野幸男（日本語学・教授）</p>	2020. 11. 18 （オンライン開催）
第21回	<p>コロナ特別企画①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19をめぐるボランティアな地理情報（VGI）の最前線 	<p>鈴木晃志郎 （人文地理学・准教授）</p>	2020. 12. 16 （オンライン開催）
第22回	<p>コロナ特別企画②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とセクシュアリティの二重スティグマ化—COVID-19下の韓国LGBTQコミュニティに起きたこと— ・新型コロナウイルスがもたらす心理 	<p>林夏生 （国際関係論・准教授）</p> <p>黒川光流 （心理学・准教授）</p>	2021. 02. 03 （オンライン開催）
第23回	<p>国家建設を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未承認国家とディアスポラ—ロンドンの『ソマリランド・ディアスポラ』の動向— 	<p>須永修枝 （国際関係論・特命助教）</p>	2021. 03. 10 （オンライン開催）
第24回	<p>文献からみる日本の文学と歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚙本における表記・表現の特質 ・〈承久の乱〉の歴史像 	<p>藤井史果 （日本文学・講師）</p> <p>長村祥知 （日本史・講師）</p>	2021. 06. 27 （オンライン開催）
第25回	<p>多様な翻訳の世界～ドイツ語を手がかりに～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪捜査の言語学～「白バラ」のビラを例に～ ・翻訳を通じた言語対照研究 	<p>阿部美規 （ドイツ言語文化・准教授）</p> <p>宮内伸子 （ドイツ言語文化・教授）</p>	2021. 10. 20 （オンライン開催）
第26回	<p>心理学の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングメモリ：現在の記憶 ・離婚後の親子関係を考える 	<p>坪見博之 （心理学・准教授）</p> <p>直原康光 （心理学・講師）</p>	2021. 11. 24 （オンライン開催）
第27回	<p>心理学の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的ストレスモデルからみた青少年の“コロナ禍” ・「気分を良くしたければポジティブ思考に！」という誤解：認知行動療法の観点から 	<p>飯島有哉 （心理学・講師）</p> <p>重松潤 （心理学・講師）</p>	2021. 12. 22 （オンライン開催）

	テーマ	発表者	開催日
第28回	—いま、語り伝えたいこと— ・天鷲絨の哀愁—富山県入善町出身の歌手・津村謙の生涯 ・ユダヤ系アメリカ文学、ホロコースト	齊藤大紀 (中国文学・教授) 秋田万里子 (アメリカ文学・講師)	2022. 01. 26 (オンライン開催)
第29回	—東アジアの言語を探究する— ・朝鮮語の處格と屬格をめぐって ・文法形式の成立から見る日本語の変化	上保敏 (言語学・准教授) 川島拓馬 (日本語学・講師)	2022. 06. 29
第30回	—東アジアの歴史と思想— ・唐帝国の軍事と北衙禁軍 ・「生成」する者としての人間 —貝原「生成」する者としての人間 —貝原益軒(1630-1704)の思想をもとに—	林 美希 (東洋史・講師) 田畑真美 (人間学・教授)	2022. 07. 27
第31回	・杉谷4号墳の調査意義と築造背景 ・「鎌倉殿」と歴史学	高橋浩二 (考古学・教授) 長村祥知 (日本史・講師)	2022. 09. 28
第32回	—20世紀が遺した問い：朝鮮半島とロシアの思想と文学から— ・朝鮮半島38度線以北における文学的表現 ・「作者と主人公」の存在論 —バフチンの小説理論の汎用性を考える—	和田とも美 (朝鮮言語文化・准教授) 武田昭文 (ロシア言語文化・教授)	2022. 10. 19
第33回	—書物が語る 遺物が語る— ・帝亡(ほろ)びて風雅在り —近代富山の漢詩人・岡崎藍田(らんでん)が見た中国— ・絵馬はいつから? —出土絵馬の研究と初期の絵馬—	大野圭介 (中国文学・教授) 次山 淳 (考古学・教授)	2022. 11. 22
第34回	—言語を探究する— ・気づかない方言文末詞に気づくとき ・音注は意味を教えてくれる	安藤智子 (言語学・教授) 森賀一恵 (言語学・教授)	2023. 6. 28
第35回	源氏物語の注釈書 ・源氏物語注釈史管見 —『源氏釈』からネット時代の校注書迄—	田村俊介 (日本文学・教授)	2023. 11. 15

(※発表者の専門分野及び職名は、発表当時のものです。)